

Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり
- 10 ヤクルトのサステナビリティ**
- 19 環境活動報告**
- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性
- 50 社会活動報告**
- 51 イノベーション
- 57 地域社会との共生**
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
- 75 人材マネジメント
- 78 人材育成
- 80 健康経営
- 83 ダイバーシティ&インクルージョン
- 85 ワークライフバランス
- 86 労働安全衛生
- 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足
- 104 ガバナンス報告**
- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集



マテリアリティ

地域社会との共生

ガバナンス

ヤクルトグループは、取締役である経営サポート本部長を委員長とするCSR推進委員会において、マテリアリティの一つである「地域社会との共生」に関する協議、進捗管理等を行っています。地域社会との共生にかかわる取り組みのうち、経営政策に関する重要事項については、取り組みを所管する部署から、取締役や監査役から構成される経営政策審議会および執行役員会・取締役会に諮る手順としています。

戦略

ヤクルトグループは、「人も地球も健康に」のコーポレートスローガンのもと、地域と共生し、環境と調和しながら事業活動を継続することが重要だと認識しています。世界に8万人以上いるヤクルトレディによる商品のお届けという独自の地域ネットワークも生かし、「安全・安心」な地域づくりに積極的に参加し、持続可能な社会の実現に向けて地域社会の発展に貢献していきます。

リスク

- 商品の安全・健康被害による事業の中断
- 商品情報開示不足による信頼性低下
- 安全な労働環境の不備、労働力不足による事業の中断
- 環境規制強化、大気汚染、生物多様性破壊等による事業の中断

機会

- 「安全・安心」、健康的な商品提供による競争力向上
- 充実した商品情報提供による信頼性向上
- ダイバーシティ推進、働きがいのある職場づくりによる労働力確保
- 環境配慮車両・自動販売機導入による環境価値向上

リスク管理

持続的な成長を続けるためには、地域社会の一員として、地域の文化・習慣を尊重し、地域社会と協調しながら、地域社会の課題解決に貢献していくことが必要不可欠であり、ヤクルトグループの事業における重要な課題として企業経営や財務に影響を与えるものと認識し、マテリアリティの一つとして特定しています。

指標と目標

行動目標	実績
● 出前授業、健康教室の推進※1	● 出前授業：60,319回実施・3,558,875人参加(日本・海外合計) ● 健康教室：336,277回実施・11,499,264人参加(日本・海外合計)
● 愛の訪問活動、地域の見守り・防犯協力活動の推進	● 愛の訪問活動：50の販売会社で実施・対象高齢者数30,343人※2 ● 地域の見守り・防犯協力活動：95※3の販売会社で927の自治体等と連携して実施
● スポーツ振興の推進	● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部活動を自粛
● 自治体等との協働事業の実施	● 国上市と災害時の水供給について協定を締結 ● 「朝食1人前」(朝ごはん活動)山間部の貧困家庭の子どもたちに朝食を提供する公益活動
● 工場祭の実施による地域との交流	● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各活動を自粛

※1 日本の一部の販売会社、海外の一部の国と地域では、オンラインを活用して実施しました。
 ※2 新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して活動を実施しました。
 ※3 ホールディングス会社傘下の販売会社を含みます。

● 課題と対策

ヤクルトグループ独自の販売組織であるヤクルトレディは、手から手へ真心を込めて商品をお届けしながら、健康情報も合わせてお伝えしています。お客さまとのふれあいを大切にすることで、地域社会の健康や「安全・安心」な生活づくりに貢献しています。

共働き世帯の増加や定年の延長による留守宅の増加、感染症への対応など、社会情勢や生活様式は常に変化しており、地域と共生していくためには、これに対応し続けることが課題であると認識しています。近年では、インターネットでの受注や非対面のお届けを強化するとともに、お客さまへの健康情報の提供をウェブサイト「Yakult BASE」等でも行いました。今後も、社会情勢や生活様式の変化に対応しながら、時代に合ったツールを活用し、地域の皆さまの健康に貢献する活動を推進していきます。



Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり
- 10 ヤクルトのサステナビリティ**
- 19 環境活動報告**
- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性
- 50 社会活動報告**
- 51 イノベーション
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
- 75 人材マネジメント
- 78 人材育成
- 80 健康経営
- 83 ダイバーシティ&インクルージョン
- 85 ワークライフバランス
- 86 労働安全衛生
- 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足
- 104 ガバナンス報告**
- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集

担当役員メッセージ



取締役 専務執行役員
食品事業本部長
化粧品事業本部長
榑良 昌利

● ヤクルトが大切にしている「地域密着」の考え方

ヤクルトは日本全国に101の販売会社があり、地域に根差した事業活動を行っています。商品をただお届けするだけでなく、おなかの健康に寄与する商品の特性をきちんとお伝えし、理解して飲んでいただくことで地域社会の健康づくりに貢献したい。そのような想いを大切にしています。1963年に誕生した「ヤクルトレディ」による独自の宅配システムは、昨年度60周年を迎えましたが、その想いは今も変わりません。手から手へ商品をお届けする「ヤクルトレディ」に象徴されるように、地域密着で皆さまに寄り添いながら、商品と健康情報をお届けすることで、皆さまの健康で楽しい生活づくりに貢献することが、私たちの使命であると考えています。

● 「地域共生社会」の実現に向けて

近年の社会構造の変化や、人々の暮らしの変化による人と人のつながりの希薄化は、今、大きな社会課題となっています。この課題を解決するために、「地域共生社会」の重要性が叫ばれています。これは、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる地域や社会を創るという考え方です。この「地域共生社会」の実現のために、ヤクルトグループは、商品や健康情報のお届け以外にも、さまざまな取り組みを行っています。小学校などで腸の大切さやからだに良い生活習慣を分かりやすく説明する「出前授業」や、地域の方々を対象とした「健康教室」の開催などがその活動です。他にも、自治体や警察と連携して行う「地域の見守り・防犯協力活動」や、一人暮らしのお年寄りの安否を確認する「愛の訪問活動」など、「安全・安心」な地域づくりに貢献する活動にも積極的に取り組んでいます。

これらの活動は、地域の皆さまに貢献したいという、全国の販売会社とヤクルトレディの想いから成り立っている活動です。これからも、独自の販売システムを持つヤクルトグループならではの「地域共生社会」実現に向けた取り組みを進めてまいります。

● 地域の皆さまとの信頼と絆を成長の原動力に

お客さまをはじめとした地域の皆さまとの信頼関係や絆は、ヤクルトグループにとって何にも代えがたい財産です。そして、私たちが今後、世界の人々の健康ニーズに応えられる「ヘルスケアカンパニー」へと進化するための大きな原動力です。

これからも、ヤクルトは、地域社会の一員として地域の文化・慣習を尊重し、地域社会と共生する事業活動を推進し、成長を続けることで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



取締役 常務執行役員
国際事業本部長
島田 淳一

● 世界の人々の健康で楽しい生活づくりのために

世界の人々の健康を守りたい。これはヤクルトが創業時から変わらず抱いている想いです。この想いを実現すべく、1964年に台湾ヤクルトが営業を開始したことを皮切りに、その後、アジア・オセアニア、米州、欧州に進出しました。現在、海外では39の国と地域で事業を展開し、約5万人のヤクルトレディを含む、7万5千人以上の従事者が理念を共有し活躍しています。

● 海外でも変わらぬ、現地に寄り添う姿勢

海外に進出するとき、私たちは現地生産・現地販売を基本とする「現地主義」を大切にしています。従業員やヤクルトレディを現地で積極的に採用することで、商品と共に健康情報をお届けし、お客さまや地域社会の健康づくりに貢献するという、私たちの使命を現地に根差すことができます。あわせて、その国や地域の就労機会の提供や、女性の社会進出にも貢献できると考えています。

また、「地域密着」という考え方も、「現地主義」と同様に大切にしています。現地の生活文化や食習慣に合わせた、健康に関する情報誌の作成やシンポジウムなども開催し、また、地域コミュニティや職場、学校等での「健康教室」も、世界のあらゆる場所で行っています。他にも、ピンクリボン活動への協賛や、植林等の環境保全活動といった社会貢献活動も、各地域のニーズや状況に応じて実施しています。

● まだお会いできていないお客さまのために

私たちが目指すのは、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献することです。しかしながら、世界にはさまざまな理由で健康を手にできていない人々がまだまだたくさんいらっしゃいます。一日でも早く、一人でも多くの人々の健康づくりに貢献できるよう、「予防医学」の考え方や、「プロバイオティクスの有用性」を発信し、多くの人々に健康をお届けしていかななくてはなりません。

そのためにも、私たちはより多くの人々に、商品を手にしていただく方法をさらに研究していきます。まだお会いできていないお客さまの健康に貢献できる日を胸に、そして、これまでどおり、「現地主義」や「地域密着」といった考え方を大切にし、お客さま一人ひとりと、さらには、地域社会に寄り添いながら、グローバルでの成長を加速させてまいります。



Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり
- 10 ヤクルトのサステナビリティ**
- 19 環境活動報告**
- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性
- 50 社会活動報告**
- 51 イノベーション
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
- 75 人材マネジメント
- 78 人材育成
- 80 健康経営
- 83 ダイバーシティ&インクルージョン
- 85 ワークライフバランス
- 86 労働安全衛生
- 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足
- 104 ガバナンス報告**
- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集

ヤクルトグループ社会貢献活動方針

地域社会の一員として、地域の文化・慣習を尊重し、地域社会と協調しながら企業活動を推進しています。また、「良き企業市民」として社会に寄与することは企業の責任であると考え、従業員一人ひとりが積極的に社会貢献活動に取り組んでいます。こうした活動は、「安全・安心」な地域づくりや健康な生活習慣の定着等、社会課題の解決にもつながっています。

2018年3月には「ヤクルトグループ社会貢献活動方針」を策定しました。本方針を基盤とし、今後は各活動をより深化させていきます。

ヤクルトグループ社会貢献活動方針

ヤクルトグループは、社会に寄与する「良き企業市民」として、地域社会と協調しながら積極的に社会貢献活動を推進していきます。

1. 人々の健康で楽しい生活づくりにお役立ちすることを使命とし、活動します。
2. 地域に根付いて活動するヤクルトグループの特長を活かして、社会課題の解決や文化・スポーツの振興に取り組めます。
3. ステークホルダーとの対話を大切にし、協働・連携します。

策定 2018年3月20日

コミュニティへの投資額

ヤクルトグループ社会貢献活動方針に則り、地域社会の発展に寄与する活動を積極的に行っています。2023年度は、約2億円を地域への貢献活動に使用しました。

コミュニティへの投資額（社会貢献活動費）

年度	2019	2020	2021	2022	2023
投資額(百万円)	620	450	188	195	200

予防医学・健腸長寿への貢献

ヤクルトは、おなかの健康に寄与する商品のお届けとともに、その特性をきちんとお伝えし、理解して飲用していただくことで、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献したいと考えています。

ヤクルトレディは、商品をお届けする際に健康に関する情報もお伝えすることで、お客様の健

康に貢献しています。直接お届けすることができないお客さまには、地域のコミュニティや他社との協働により、「予防医学」や「健腸長寿」の大切さを分かりやすくお伝えしています。

● 健康情報の提供

ヤクルトレディによる健康情報の提供だけでなく、健康に関するテーマで専門家に講演していただく「健康フォーラム」を実施しています。また、健康・科学情報誌『ヘルシスト』の発行や、各種資料等を活用し、地域の皆さまの健康に積極的に貢献しています。

関連情報 P.101「ヘルシスト」

● 出前授業

各地域の販売会社の社員が小学校などに出向き、「出前授業」を行っています。腸の大切さや「よいうんち」を出すための生活習慣について、模型などを活用して、分かりやすく説明します。この取り組みは高い評価を受け、日本食育学会誌にも好事例として掲載されました。また、2015年には文部科学省主催の「青少年の体験活動推進企業表彰」審査委員会奨励賞を受賞しました。

海外でも多数の国・地域で実施しています。2023年度の日本全国の実施回数は4,360回、参加者数は231,260人でした。海外では、実施回数は55,959回、参加者数は3,327,615人でした。

なお、2022年度にオンライン版の出前授業「おなか元気教室」を開発しました。これにより、オンライン開催のニーズにも対応できる環境が整いました。

● 健康教室

各地域の販売会社社員などが講師となり、「健康教室」を開催しています。センター（ヤクルトレディの販売拠点）や公共施設などを利用して、腸の大切さやプロバイオティクス、季節にあわせた健康情報など、幅広いテーマで実施してきました。近年ではその範囲を取引先（チェーンストア、受託給食会社など）にも広げ、健康教室のほか栄養相談会も開催しています。

2023年度の日本全国の実施回数は69,353回、参加者数は366,968人でした。海外では一部の国と地域でオンラインも活用し、実施回数は249,526回、参加者数10,207,045人でした。

※ 日本の一部の販売会社では、オンラインを活用して活動しています。海外では、香港、フィリピン、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、インド、広州、中国、ブラジル、メキシコ、イギリス、ドイツ、オランダでオンラインを活用した活動を実施しています。



健康教室(インドネシアヤクルト)



Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり
- 10 ヤクルトのサステナビリティ**
- 19 環境活動報告**
- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性
- 50 社会活動報告**
- 51 イノベーション
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
- 75 人材マネジメント
- 78 人材育成
- 80 健康経営
- 83 ダイバーシティ&インクルージョン
- 85 ワークライフバランス
- 86 労働安全衛生
- 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足
- 104 ガバナンス報告**
- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集

● 大腸がんに対する情報提供

医薬品事業に関連する社会貢献活動として、大腸がんの患者さんやそのご家族に向けて、病気や治療について分かりやすく説明したパンフレットやウェブサイトで知識を深められる機会を提供しました。

ウェブサイトではがん専門医の監修のもと、大腸がんに関する基本的な情報に加え、医療従事者へのインタビュー、大腸がんに関するQ&A、各種トピックス等を配信しました。

2023年度は、大腸がん治療を受けている患者さんの災害への備え、がん検診受診率向上に向けた啓発活動に関するトピックスなどを配信しました。2012年3月のウェブサイト開設以来、これまでに延べ約1,800万人の皆さまにご利用いただきました。

● 美容教室

健康と美容は密接に関係しています。健康に寄与する飲料・食品・医薬品とともに、化粧品を取り扱うヤクルトでは、美容教室を継続して実施しています。

販売会社社員やヤクルトビューティがお客さま、地域にお住まいの方々や法人に対して美容情報を提供したり、お肌の悩み相談会等を行ったりしています。



美容教室

各国・地域における取り組み

● 乳がん早期発見・治療の啓発

日本では、乳がんの早期発見・治療の啓発活動を行っている認定NPO法人 J.POSHのオフィシャルサポーターになり、ピンクリボン活動に協力しています。

また、シンガポールヤクルトは、シンガポール乳がん基金(BCF)との協働による啓発活動を続けています。2023年は、BCFが作成した乳がんへの理解促進のためのリーフレットの配布にヤクルトレディが協力したほか、シンガポールがん協会が主催したマラソンイベントや、国立消化器疾患財団(NFDD)のパブリックフォーラムに協賛しました。

中国ヤクルトでは、同国のメディアグループ「第一財經」の関連団体「上海第一財經公益基金会」が取り組む女性の社会的自立を推進するプロジェクト「BePink」に参画し、乳がんの早期発見・治療の啓発活動を行いました。中国4都市で合計1,000人の乳がん検査を支援したほか、5都市で乳がんの予防法、検



リーフレットを配布するヤクルトレディ(シンガポール)

査項目、治療法を解説する情報共有会を実施しました。またメディアを通じて本活動を紹介し、乳がん予防、検査の必要性を広く生活者に伝える活動を推進しました。

中東ヤクルトでは、健康的なライフスタイル維持の啓発を目的とした病院の乳がん啓発キャンペーンイベントに参加し、当社の広報チームが「ヤクルト」と日常生活におけるプロバイオティクスの重要性について説明したほか、「乳酸菌 シロタ株」に関する冊子の配布とともに、商品のサンプリング・ピンク色のリストバンドの提供を行いました。

● JICAとの協働によるサンプリング活動(インドヤクルト)

インドヤクルトは、JICA Indiaによる新型コロナウイルス感染症やその他の感染症予防に向けた子どもの衛生意識を高める活動“Achhi Aadat (Good Habit) Campaign”との協働を進めています。2023年4月にJICA Indiaと作成した、手洗い・腸の重要性を啓発するリーフレット40,000枚をヤクルトレディが配布・説明したほか、ビハール州を中心に活動しているNPO団体FC NonoとJICA Indiaの共同イベントでサンプリング活動と健康教室を実施しました。

このほか2023年は、年間を通じてマラソン大会、クリケットイベント、地域・企業イベント等、延べ約19万人が参加するイベントに協賛、438回のサンプリングを実施、計16万本の商品を配布しました。



JICA Indiaが進めている“Achhi Aadat Campaign”との協働(インド)

● 糖尿病患者への健康情報提供(フィリピンヤクルト)

フィリピンヤクルトは、首都マニラ郊外の都市パラニャケにおいて、年間を通じて「パラニャケ糖尿病クラブ(DCOP) 月例会」の活動を支援しています。同会は、糖尿病についての意識向上と糖尿病患者が病気を管理することを目的としており、当社はサンプルの提供と栄養と健康に関する講義を行いました。

● 子どもの医療への支援(グアダラハラヤクルト)

グアダラハラヤクルトは、「ヤクルト」の商品の売り上げに応じて、小児がん患者など病気の子どもの支援する活動を行っています。2023年3、4月の2か月間に「ヤクルト」1本ごとに1セントを積み立て、子どもの医療を支援する2つの団体にも約30人の子どもたちの医薬品、検査、手術などの支援のために、売り上げに応じた積み立てと社員からの募金の合計約26万ペソを寄付しました。



グアダラハラ市民病院への寄付

Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり
- 10 ヤクルトのサステナビリティ**
- 19 環境活動報告**
- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性
- 50 社会活動報告**
- 51 イノベーション
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
- 75 人材マネジメント
- 78 人材育成
- 80 健康経営
- 83 ダイバーシティ&インクルージョン
- 85 ワークライフバランス
- 86 労働安全衛生
- 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足
- 104 ガバナンス報告**
- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集

● 地域の健康啓発プログラム(マレーシアヤクルト)

マレーシアヤクルトは、腸の健康の重要性についての理解の促進を目的に地域の健康意識向上プログラムを実施しています。教育的な講演やアウトリーチ活動などを通じて、腸の健康の重要性を伝え、予防医療の文化を育むことで、より健康なコミュニティに貢献することを目指します。2023年は、マレーシア半島の10か所でプログラムを実施、計1,768人が参加しました。



地域の健康啓発プログラム(マレーシア)

地域の「安全・安心」への貢献

● 愛の訪問活動

「愛の訪問活動」は、ヤクルトレディが商品をお届けしながら、一人暮らしの高齢者の安否を確認したり、話し相手になったりするという活動で、1972年から続けています。この活動は、福島県郡山市の一人のヤクルトレディが、誰にも看取られずに亡くなった一人暮らしの高齢者の話に胸を痛め、担当地域に暮らしている同じような高齢者に、自費で「ヤクルト」をお届けしたことが始まりです。販売会社や地域の民生委員の方々がその想いに共鳴し、自治体も動かして「愛の訪問活動」として、全国的に活動の輪が広がっていきました。

2023年度も継続して実施し、2024年3月現在、全国115の自治体等から要請を受け、約2,300人のヤクルトレディが約30,000人の高齢者のお宅を訪問しています。

海外では、韓国ヤクルトにおいて一人暮らしの高齢者約3万人の安否を確認する活動を継続して行っています。

● 地域の見守り・防犯協力活動

担当地域に毎日商品をお届けしているヤクルトレディは、地域のすみずみまで目が届くことから、全国927の自治体、警察等と連携して地域の「見守り」や「安全・安心」へのお手伝いをしています。お客さま宅に異変を感じたヤクルトレディが警察署に通報し、署員がお客さまを発見・救助した等の事例もあります。2024年3月現在で、全国95社*の販売会社で組織がつくられ、地域の「安全・安心」に貢献しています。

また、中央研究所では、2015年から「ピーポ君の家」に協力しています。子どもたちが登下校時や下校後に「声かけ、ちかん、つきまとい」等の被害を受けたり、身に危険を感じたりしたときに、助けを求めることができる緊急の避難場所に指定されています。

* ホールディングス会社傘下の販売会社を含む。

● 障がい者支援施設への支援

各都道府県の遊技事業協同組合を通じ、福祉施設を利用する障がい者の方々へ労働機会を提供することで、社会活動への参画を支援しています。遊技場で来店客に配布するヤクルト製品に、年賀や暑中見舞い等のあいさつのシールを貼り付ける作業を依頼しています。2023年度は22都道府県65施設に、合計約55万本を依頼しました。

● 自動販売機による社会貢献活動

ヤクルトグループでは2024年3月末時点で、日本国内に約4万台の自動販売機を設置しています。

これらの自動販売機の中には、地域の皆さまや支援が必要な方々に役立つ社会貢献型自動販売機もあります。

また、すべての人にとって使いやすいユニバーサルデザインの自動販売機や、大地震等の災害時に機内の商品を無償提供する災害救援型自動販売機、防犯活動に役立つ監視カメラのついた防犯型自動販売機を設置しています。

このほかにも、キリンビバレッジ株式会社と協業して、売上金の一部を公益財団法人日本対がん協会に寄付するピンクリボン自動販売機の設置を進めており、2024年3月末時点では、全国合計で284台稼働しています。



ピンクリボン自動販売機

● 災害支援活動

地域の「安全・安心」を目指すヤクルトでは、積極的に災害支援活動を行っています。

茨城工場・富士裾野工場・兵庫三木工場では、「災害時における応急給水に関する協定書」等の協定を締結しています(五霞町、裾野市、三木市)。海外においても、地震や台風等の自然災害が発生しやすい地域にも生産拠点があることから、災害発生時に速やかに支援を行うことができるよう、体制を整えています。

中央研究所では、災害発生時における避難者への生活用水の供給に関する協定を国立市と締結しています。また、国立市内にある消防署の出張所2か所において、24時間体制で防災活動を行っている消防署員に対し、大規模地震等の災害が発生した際に、中央研究所に備蓄している生活用水を供給する協定を締結しています。

Contents

02	サステナビリティレポート2024について
03	編集方針
04	ヤクルトの企業概要
05	ヤクルトの事業展開
06	トップコミットメント
08	ヤクルトのはじまり
10	ヤクルトのサステナビリティ
19	環境活動報告
21	環境マネジメント
27	気候変動
37	プラスチック容器包装
42	水
46	資源循環
47	生物多様性
50	社会活動報告
51	イノベーション
57	地域社会との共生
64	サプライチェーンマネジメント
75	人的資本
75	人材マネジメント
78	人材育成
80	健康経営
83	ダイバーシティ&インクルージョン
85	ワークライフバランス
86	労働安全衛生
88	ヤクルトレディに対する取り組み
89	人権
96	製品安全
99	顧客満足
104	ガバナンス報告
104	コーポレートガバナンス
111	リスクマネジメント
113	コンプライアンス
116	第三者意見
117	外部からの評価
118	ESGデータ集

● 高齢者の見守り(中国ヤクルトグループ)

旧暦9月9日の重陽節は中国の伝統的な敬老の日です。高齢者の健康を守るという考えのもと、中国ヤクルトグループでは、宅配センターのヤクルトレディが、担当地域の高齢者の自宅や老人ホームなどを訪問してお年寄りと交流する「益起楽享生活」と題した慰問活動を継続しています。2023年は、南昌、衡陽の2都市も加わり、中国の7都市10か所での開催となりました。

各地のヤクルトレディが計463人の高齢者を訪問し、花や「ヤクルト」のギフトパックを贈りました。また、老人ホームへの訪問では、腸の健康をテーマにした健康教室のほか、歌、ゲーム、指の体操などで交流を深めました。

また、広州ヤクルトでは、地元のボランティア組織との協働で、62世帯の高齢者を訪問し、計670本の「ヤクルト」を寄贈しました。



「益起楽享生活」で高齢者自宅を訪問

健康増進・スポーツ振興

ヤクルトグループは、各種スポーツの振興と地域・社会貢献活動を積極的に行うことで、健康増進に寄与するよう努めています。

● 野球教室

プロ野球のシーズンオフに、「東京ヤクルトスワローズ」の現役選手による野球教室を全国で開催しています。また、NPO法人「つばめスポーツ振興協会」を2005年に設立し、東京ヤクルトスワローズOBによる野球教室を全国で開催しています。

2023年度は、東京ヤクルトスワローズ現役選手による野球教室を全国10会場、OBによる野球教室を3会場で実施しました。

● 投げ方教室

近年、小学生の運動能力の低下、特に投力の低下が問題視されています。ヤクルト球団では小学校・幼稚園などからの依頼を受け、「投げ方教室」を中心とした出前授業を開催しています。この出前授業ではチャレンジを醸成することに重きを置き、2023年度は95回開催、9,820人が参加し、過去最高の実施回数・参加人数となり、23区すべての区で実施することができました。



投げ方教室

● 陸上競技部・ラグビー部

1972年創部の陸上競技部は、各種駅伝やマラソン大会に出場しています。また、1988年から選手と市民ランナーのふれあいの場として「ヤクルトランニング教室」を毎年開催しています。

1980年創部のラグビー部「ヤクルトレビズ」は、2024年からはジャパンラグビーリーグワン ディビジョン3への参入が決定しています。また、埼玉県「戸田ラグビー祭」や東京都内や千葉県内の小学校での「タグラグビー教室」、「レビズラグビー祭」の実施を通じて、ラグビーの普及活動・健康増進に貢献しています。

環境保全

● 清掃活動

各工場では、工場周辺や近隣の河川や公園、神社等の環境美化活動を自主的に実施しています。2023年度は82回の実施、822人の参加となっています。また、地域主催で行っているクリーン活動等にも積極的に参加しています。

中央研究所では、所員によるクリーン活動を毎月第2木曜日に実施しています。2023年度は9回の実施、188人の参加がありました。そのほか、子どもを対象に自然に親しむ楽しさを体験してもらう「多摩川探検隊」等、次世代育成につながる活動にも積極的に参加しています。

● リサイクルフェア

本店ビルおよび一部の事業所では、社会貢献活動の一環として毎年「リサイクルフェア」を開催し、社員からの寄付金と書籍の売却益の全額を公益財団法人オイスカの「子供の森」計画に寄付しています。2023年度は8万4,517円を寄付しました。また、マッチングギフト(集まった寄付金に対して会社が同額を上乗せすること)として、同計画に同額を寄付しました。

Contents

02	サステナビリティレポート2024について
03	編集方針
04	ヤクルトの企業概要
05	ヤクルトの事業展開
06	トップコミットメント
08	ヤクルトのはじまり
10	ヤクルトのサステナビリティ
19	環境活動報告
21	環境マネジメント
27	気候変動
37	プラスチック容器包装
42	水
46	資源循環
47	生物多様性
50	社会活動報告
51	イノベーション
57	地域社会との共生
64	サプライチェーンマネジメント
75	人的資本
75	人材マネジメント
78	人材育成
80	健康経営
83	ダイバーシティ&インクルージョン
85	ワークライフバランス
86	労働安全衛生
88	ヤクルトレディに対する取り組み
89	人権
96	製品安全
99	顧客満足
104	ガバナンス報告
104	コーポレートガバナンス
111	リスクマネジメント
113	コンプライアンス
116	第三者意見
117	外部からの評価
118	ESGデータ集

社会的弱者への支援

ヤクルトの企業理念「私たちは、生命科学の追究を基盤として、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します。」は、事業活動そのものがSDGsの各目標への貢献にかかわっています。SDGsの目標の一つでもある貧困への対応は、当社グループにとっても重要な課題と認識しています。

脆弱な立場にある人々に対して、当社商品の提供や、支援活動を通じて、「誰一人取り残さない」健康な生活づくりを目指し、課題解決への貢献に取り組んでいきます。

● 孤児院への寄付(インドネシアヤクルト)

インドネシアヤクルトでは、2022年から孤児院で生活する子どもたちへの「ヤクルト」の寄付活動を行っています。2023年は3か所の施設に計856本の「ヤクルト」を寄付しました。孤児院に「ヤクルト」を届ける際は、商品の紹介に加えて、歯みがきの仕方を伝えるなど健康や衛生に関する指導も行っています。

● 貧困家庭への支援(広州ヤクルト)

広州ヤクルトは、2023年5月に仏山市三水区の労働組合、ボランティア団体と連携して貧困家庭の子どもたちも参加できる無料の映画鑑賞会を開催しました。また、同区内の貧困家庭の子どもたちに「ヤクルト」1,000本を寄贈しました。



● 給食プログラムへの協賛(フィリピンヤクルト)

フィリピンヤクルトは、同国内の2か所で、貧困家庭の子どもたちを対象とした給食プログラムに協賛しています。2023年は、200人の子どもたちと、その親、地域住民が参加しました。商品のサンプリングとともに、健康教室を開催し、栄養不足を軽減する健康的な食生活を奨励しました。

● 欧州における社会的弱者への支援

欧州では各国・地域がそれぞれ社会的弱者に対する支援活動を行っています。

イギリスヤクルトは、ロイヤルボランタリーサービス(RVS)と提携し、高齢者が安全で健康に寒い時期を過ごすための支援として、イギリス全土に配布する冊子(印刷版7万8,000部以上、デジタル版34万部以上)に掲載するための栄養アドバイスコンテンツとヤクルト学術チームによる腸の健康アドバイスを提供しました。また、地域のフードバンクに食品を提供するなど、イギリス

ヤクルトの従事者がボランティアとして活動に参加しています。このほか、約38万本の「ヤクルト」を地域の老人ホーム、病院、フードバンク等に寄付しました。

イタリアヤクルトは、貧困層やホームレスを支援する団体である「オペラ・サン・フランチェスコ」「パネ・クオティディアノ」「ミラノ・シティ・エンジェルス」等に寄付するとともに、商品の無償提供を行いました。

ドイツヤクルトは2020年2月から、デュッセルドルフで貧困に苦しむ高齢者をケアする地域コミュニティ「ヘルツヴェルク」を支援しています。2023年は対象者20人に対し2週間ごとに「ヤクルト」を提供しました。また、2022年6月から、食事の費用負担に加えてノウハウを提供する「ヘルシーディナー」への資金援助も継続しています。

オーストリアヤクルトは、2020年から毎年7、8月に冷房を利用できない人に涼しい場所を提供する赤十字クーリングセンターの支援を続けています。2023年は商品や菓子類を無償で提供しました。

● 「朝食1人前」(朝ごはん活動)を支援(中国ヤクルト)

中国ヤクルトは、同国のメディアグループ「第一財經」が実施する山間部の貧困家庭の子どもたちに朝食を提供する公益活動「朝食1人前」(朝ごはん活動)に参加しています。この活動は、参加する企業が特定の日の朝食代を寄付するもので、中国ヤクルトは、2013年から11年連続で毎年5月29日の世界腸健康デーに1万元の協賛を続けています。2023年は、中国ヤクルトグループの担当者が雲南省の小学校を訪問し、子どもたちに商品を提供するとともに、健康教室を開催、腸の健康の重要性や乳酸菌のはたらきについて説明しました。